

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501308		
法人名	有限会社 レストケア		
事業所名	グループホーム びーぶる (A)		
所在地	札幌市南区石山東3丁目3番8号		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170501308-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170501308-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年3月4日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域との交流を行っている。ホーム内行事への参加も増えて来ており、近隣小中学生の慰問や町内会行事への参加、避難訓練等も多数参加頂いていたが、現在はコロナウィルスの影響もあり、地域との交流は難しい状況である。  
 ・看護師と共同で身体面、精神面等の健康管理を行っている。  
 ・スタッフは利用者とともに支え合い生活をしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は南区の石山地区にあり、周囲は閑静な住宅地で幹線道路のバス停から近く、2階建て2ユニットの建物はごく普通の様相で、立ち並ぶ戸建て住宅に溶け込んでおり、豊かな自然と落ち着いた住宅街の中で、2ユニット18人の高齢者が生活を共にしている。当事業所の優秀な点の筆頭に地域との連携を挙げたい。毎年恒例の町内会の夏祭りへの利用者参加や事業所行事への地域住民の参加、近隣幼稚園や小、中学校の子供たちによる事業所慰問など、地域との相互交流は開設以来積極的な努力で継続、継承されている。事業所の避難訓練には地域住民も参加し、お向かいの車庫を緊急時利用者避難先として提供してもらうなど、防災での協力体制も整備されている。ケアの面でも看護師を配置し、協力医の協力のもと厚い医療体制が整っており、毎年1~2名の看取り実績もあり、重度化や終末期に関する指針と同意書と、実際に重度化した時の指針と同意書の両方を契約時に説明している。また広報活動も活発に取り組み、家族向けのお便り「びーぶるお便り」を毎月発行し行事等の報告の他に、利用者一人ひとりの「個人便り」も定期的に家族に送っており、また地域の地域に向けて「公報」も定期発行し、さらに2ヶ月ごとの運営推進議事録も配布するなど、個人や地域に向けて各種の情報を発信し、開かれた事業所として、また認知症の理解に向けて精力的に展開している。利用者との信頼が高い「グループホームびーぶる」に今後も注目していきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念とユニット毎に独自の理念を作り毎朝申し送り時に読み合わせを行い確認している	事業所の理念とユニットごとの理念を毎朝唱和しており、介護実践への心構えとして意識し、また事業所内に貼りだし、利用者や家族、職員等の関係者に提示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染防止の為、町内行事は全て中止になっている。時折、町内役員の方の玄関先での訪問があり、話をさせて頂いている。福祉学園の生徒よりお便りを頂いた	2006年の開設で、地元住民とは相互の関係性を築いており、町内会には定期的に事業所広報を配布し、地域での介護の担い手として、認知症や介護の理解促進に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はスタッフのみで書面会議を行っている。結果を構成メンバーに送っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録をお届けの際に色々とお話をさせて頂き、今後のサービスの参考にしている	行政や町内会役員、利用者、家族の参加で二ヶ月ごとに定期的実施され、利用者の状況や各種の事業報告等が行われサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市、区からの情報には必ず目を通している	市の行政窓口とは、介護保険制度の運用について随時指導を受けており、また包括センターとも情報交換を行ない、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を隔月に開催し入居者の状況を検討している。又毎月勉強会を行っている。玄関は開錠し拘束をしないケアに取り組んでいる。又、外部の研修にも積極的に参加していたが、現在はコロナウィルスの影響により行っていない	「身体拘束適正化委員会」を2ヶ月毎に開催し、日々の介護を検証している。年に2回の研修の他に必要と思われる勉強会を随時行い、また職員への周知徹底は、会議や申し送り時に行い、事業所一体となって拘束や抑制と無縁な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、毎月勉強会を行っている。職員が互いに声掛けを行い、注意し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、必要性を理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前と契約時に文書にて説明し、理解、納得頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時に状況報告を行い、又話を伺ったり要望、意見を頂いている	家族向けに3種類のお便りを発行し、利用者の日々の様子を詳細に伝え、またアンケートも実施し、苦情箱も設置するなどして意見や苦情を取り込んでいく。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を行い、職員との意見交換や提案を聞き、運営に反映させている	毎月の職員会議や朝夕行う毎日の申し送り等を活用し、職員からの要望や意見を取り入れている。また必要に応じて面談も設定し、何でも話し合える環境となるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や努力、勤務状況を把握している。各自が向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を把握し内外の研修参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナウィルスの影響により、同業者との訪問交流は行っていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話易い雰囲気を作り、要望に耳を傾けながら関係を築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、困っている事などを傾聴し、信頼関係を築ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族などの意見を尊重し、必要としている支援を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースを最優先とし共に個々の能力に合わせた生活が送れるように対応している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告を常に行い、共に本人を支えていく関係に努めている。又、ガラス越しの面会や電話等で安心できるように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや馴染みの人との関係が途切れない様努めている	今までの関係性を重要な視点と考え、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に重ねられるように支援し、一人ひとりの暮らしが事業所の都合で途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のペースを尊重し、利用者同士が楽しく過ごせ、支え合える様な支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人、家族との関係を大切にし、相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に努めているが、難しい場合は、家族と相談しながら検討している。	毎日の生活を支えながら、嫌な事や好きな事等々を把握し、職員間で共有、本人の意向に沿った暮らしを支援している。困難な場合でも仕草や目線、顔や全体の表現等を頼りに本人本位になるよう検討している。	本人の最終段階への思いの把握は、本人本位の観点から必要と思われるが、職員との話し合い等で事業所として方向性を検討し、より本人の意向に沿える取組みになるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴、生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースで過ごせる様に心身の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望、意向を聞き介護計画を作成し毎月カンファレンスを行っている	状況に応じて医療や本人、家族の希望を聞き取り介護計画を作成している。モニタリングは利用者の毎日の生活を個人記録に記入し、3か月ごとに見直し、更新は6ヶ月とし、必要な場合はカンファレンスを開いて現状に合うよう変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に日々の様子やケアの実践を記録している。職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望やその時々状況に応じ対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方から声をかけて頂いており、安心して生活できるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を受け訪問診療や受診等適切な医療が受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の意向を尊重して決定している。契約時に本人や家族と話し合い、訪問診療や訪問看護の利用、通院への支援や日常の健康管理等で適切な医療を受けられるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行っている。少しの異変や気づきを看護師へ伝え、適切な指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者と情報交換を密に行い、連携を取っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、終末期について説明している。家族とかかりつけ医と十分な話し合いを行い、方針を全員で共用し支援に取り組んでいる。又 終末期生活支援に関する覚書に医師からの所見を頂いている。	契約時に、指針により終末期について説明し同意を得ている。状況の変化に応じ再度確認し、終末期支援の覚書を交わしている。主治医と家族、職員間で方針を共有し、本人の安心できる環境を作り、看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、定期的に勉強会を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策計画、マニュアルを作成している。年2回災害(火災、地震、水害等)の避難訓練を行い、常にシミュレーションしている。地域の方から声をかけて頂いている	年2回の火災避難訓練を近隣住民の方も参加して実施している。また自然災害に備えた非常食の備蓄や対策を整え、地域との協力体制を築いて不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー委員会を設置し勉強会を行っている。互いに注意、声掛けし対応している	接遇が介護の基本であることを理解し、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の要望を大切にしている。レクリエーション等自己決定が出来る様に配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重している。希望に添った生活が出来る様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の好みを尊重している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備や片づけを行っている。食事が楽しめるように努めている	食材購入や献立は業者に委託している。利用者の好みの食事を一緒に調理したり、盛り付けや後片づけをしている。行事食や誕生会の食事などは利用者の好みや要望に合うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し食事形態等で工夫し、食事、水分の摂取が出来る様に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床、就寝前に個々の状態に合わせた対応をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導しトイレでの排泄を行っている	トイレでの排泄を基本として、時間で誘導し排泄を促している。その他、利用者個人の排泄サインも職員で共有し、本人が負担にならない様、自然な形で排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解している。飲食物の工夫や運動等を行い対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の身体状況に合わせた支援をしている	お湯は毎日取り換えて用意し、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に支援している。また、拒否の強い利用者には無理強いすることなく、時間や介護者に変化をつけて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせ状況に応じて休息や眠れる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋内容を確認し、副作用、用法について理解しており、服薬後の状態の変化を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力を把握し、無理の無い範囲で役割と楽しく過ごせる様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マスク着用しドライブ、外気浴等感染に注意を払い行っている	季節のドライブや外食、買い物等で外に出る機会を設けている。また天候と相談しながら、日常のご近所の庭を拝見したり、散歩をしており、閉じこもらない介護を実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持してはいないが、外出時一人一人の力に応じ買い物、支払等を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は自由に使用できるようにしている。手紙のやり取りができる様支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部にTVや絵画、花があり、又季節の飾りつけ等をしている。利用者が居心地良く過ごせる様に工夫している	共用空間は、大きな窓からの採光も良く、明るく清潔に保たれている。季節飾りや絵画、観葉植物が置かれてあり、温かな雰囲気である。トイレ表示や、歩行訓練用の白線を引くなど分かりやすい表示で、其々の自立を助け、居心地良く安心できる住環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部のソファやテーブル席で利用者同士が談笑したりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や身の周り品を持参し、本人が居心地良く過ごせる様工夫している	居室に吊り棚やハンガーポールを備え付けている。馴染みの物の持参を促しており、仏壇に手を合わせたり、手芸や本を読んだり、プライベートな空間で、今までの習慣や生活スタイルが継続できるようにしている。室内の安全を考慮して、家具の配置などを家族に相談している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。安全に自由に生活が送れる様に工夫している		